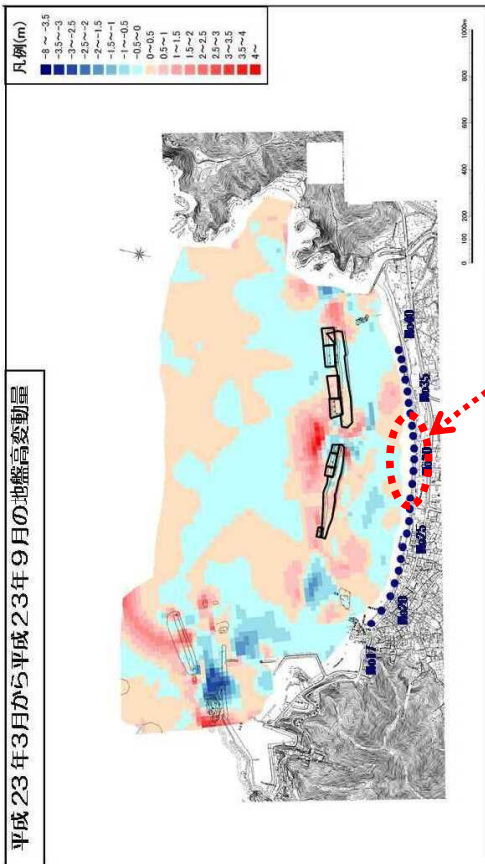


2.1 測量成果による近年の汀線変化分析

2.1.3 深浅測量成果に基づく土砂変化量分析

平成23年3月から平成23年9月の地盤高変動量



・H24.1月2日~11日かけて15m/sを越える最大風速(気象庁湖山観測所)が頻発し、浜崖が発生



2.1 測量成果による近年の汀線変化分析

2.1.4 土砂量変化分析

土砂変化量の比較結果一覧

比較期間	土砂投入状況		波浪状況 ※1	波高生起分布	土砂収支図
	投入時期	投入場所			
H16.3 ～ H23.3	各年4月 ～ 翌年2月	①人工リーフ 開口部背後	1.54 m		
	各年4月 ～ 翌年2月	②小栗浜 ③浦富海岸 ④第2駐車場 ⑤牧谷			
H23.3 ～ H23.9	H23.4～ H23.8	①人工リーフ 開口部背後	1.24 m		
	H23.6～ H23.7	②小栗浜 ③浦富海岸 ④第2駐車場 ⑤牧谷			

※1：波浪状況は、波高のエネルギー平均波で表示した： $H_m = \sqrt{\{\sum (H_i^2 / T_i) / \sum T_i\}}$

※2：平成20年8～平成21年2月は、波浪観測データが欠測。

- 【H16.3-H23.3】**
- 人工リーフ開口部付近において侵食傾向
- 東側人工リーフ前面の堆積が顕著
- 【H23.3-H23.9(6ヶ月)】**
- 開口部付近の侵食傾向が改善

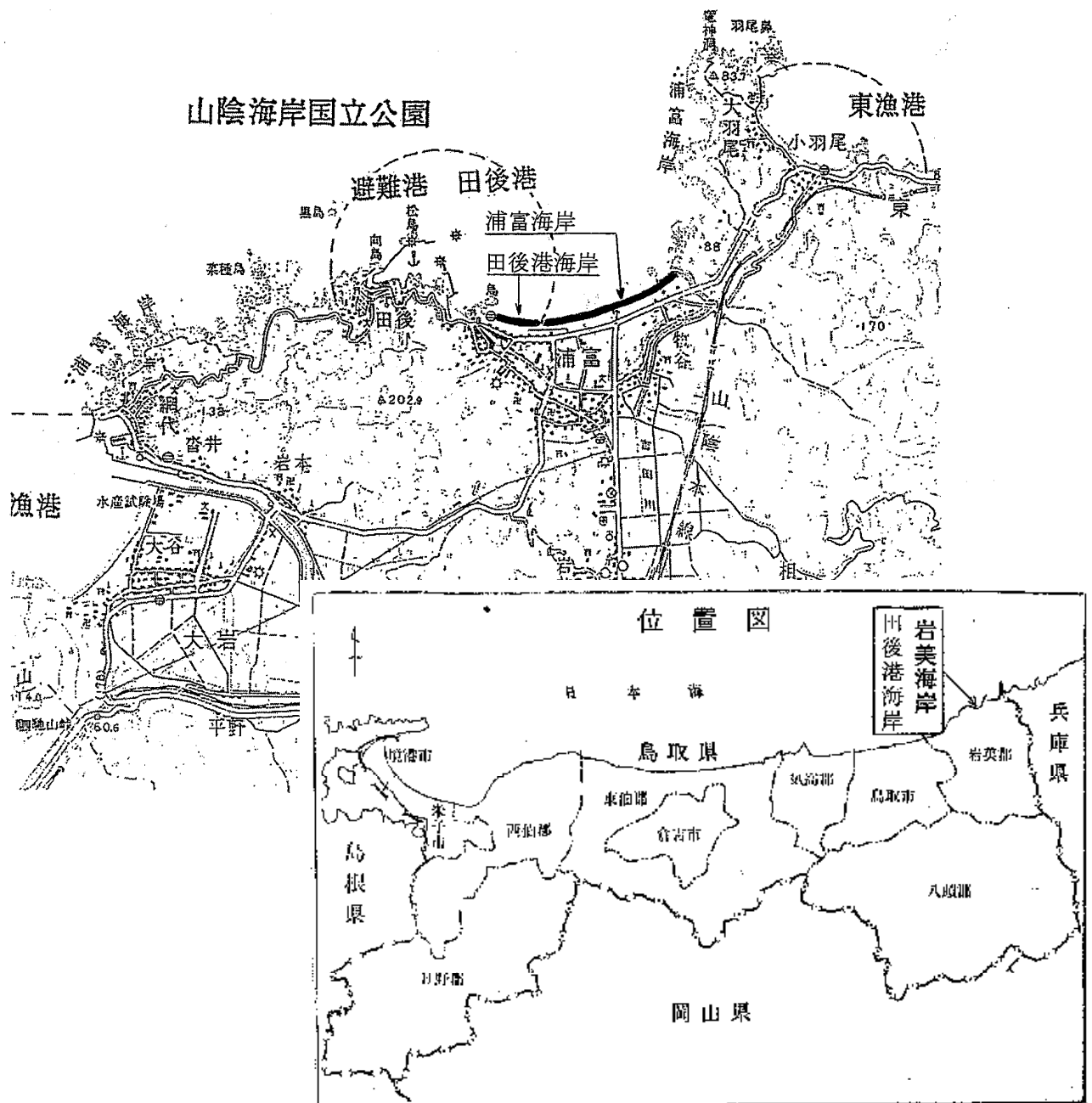
岩美海岸（浦富地区）及び田後港海の侵食対策に係る検討経過

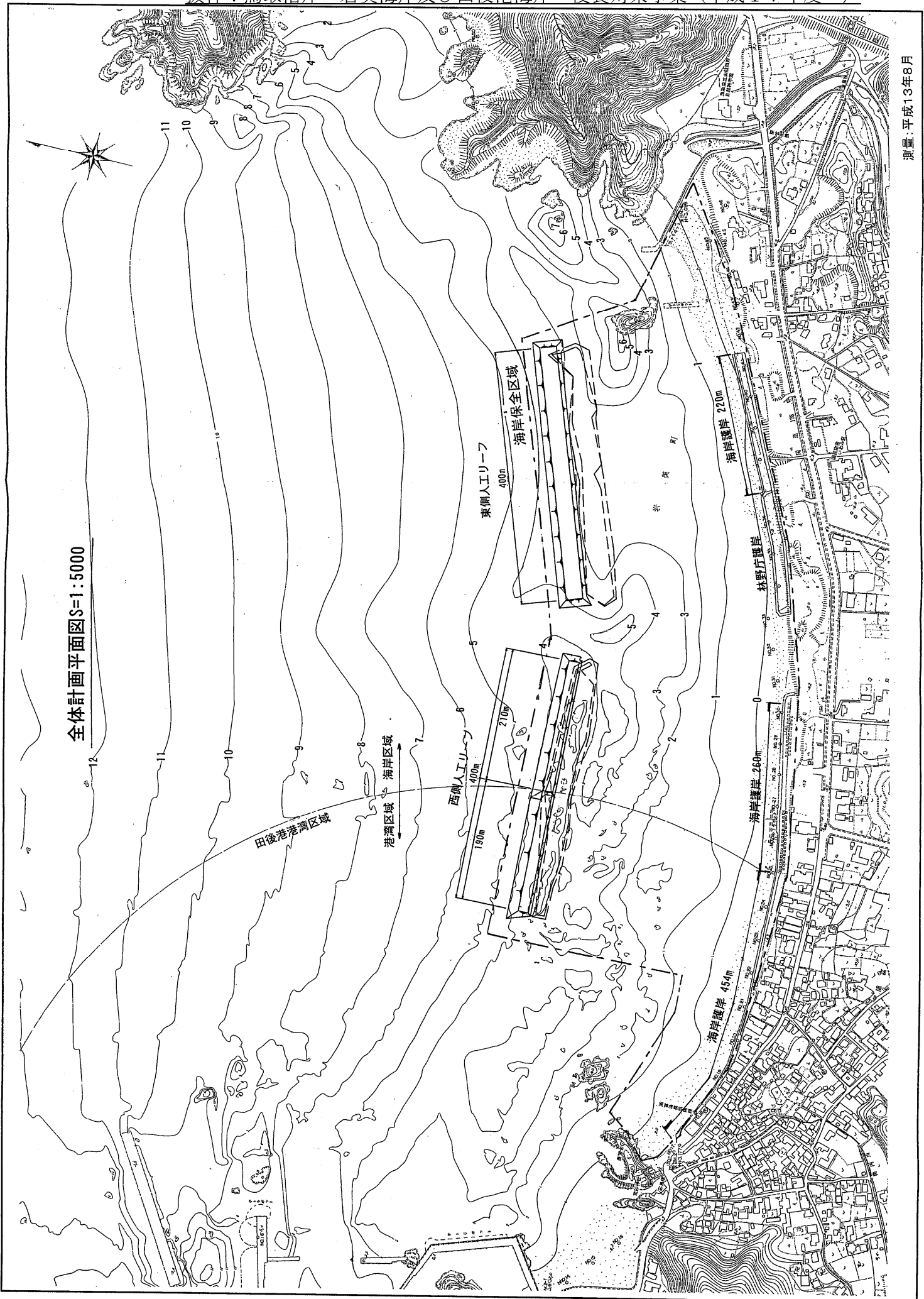
検討年月		課題・項目	概要	人工リーフ施工状況
平成元年		第7防波堤による遮蔽の形成により	・波高を1.0m程度に減衰させるための人工リーフ断面の決定	-
平成2年		・浦富海岸東側侵食傾向 ・同時に向島周辺・田後港航路付近の堆積傾向	・実験により海浜が安定することを確認 ・対策案の提案（延長400m×2基、天端高D.L+1.5m、天端幅30m） ・全体計画の策定	（施工開始） 西側延長 70m、東側延長 210m 完了
平成3年				西側延長 134m、東側延長 250m 完了
平成4年				西側延長 215m、（東側延長 250m 完了）
平成5年		・対策工の機能評価 ・航路埋没に対する基本事項の調査（H5までの既存資料整理、数値解析等）	<人工リーフ機能評価> ・東側人工リーフ周辺で海浜安定傾向（改善） ・航路部及び西側人工リーフ周辺で堆積傾向が継続	西側延長 356m、（東側延長 250m 完了）
平成6年			<浦富海水浴場> 西側リーフ付近の突堤案では侵食傾向となるが、田後港港口堆積については、堆積抑制効果小 <田後港港口> 以下の3案の対策案が提案されるものの、効果の検討及び船舶運航上の課題があり、検討の余地あり。 ①向島からの貯砂突堤案、②港口突堤案、③向島沖合部潜堤案	西側延長 356m、（東側延長 250m 完了）
平成7年		・対策による十分な効果が得られないことから断面変更を検討	・従前の「人工リーフの機能と設計法（建設省土木研究所）」ではなく、新たらしい指針「人工リーフの設計の手引き（全国海岸協会）」により検討 ・天端幅が90m必要との結論を得るが、当初30mから3倍規模の変更となることから、暫定断面として天端幅50mでの施工とし、効果を追跡	（西側延長 356m）、東側延長 350m、天端幅 50m に拡張
平成8年				西側延長 400m、天端幅 30m、東側延長 400m、天端幅 50m

平成9年					
平成10年	・ 田後港港口部の航路埋没対策	・ 田後港港口部の航路埋没対策	・ 田後港港口部の航路埋没対策	・ 田後港港口部の航路埋没対策	・ 田後港港口部の航路埋没対策
平成11年	・ 浦富海岸西側の堆砂対策	・ 浦富海岸西側の堆砂対策	・ 浦富海岸西側の堆砂対策	・ 浦富海岸西側の堆砂対策	・ 浦富海岸西側の堆砂対策
平成12年					
平成13年	・ 平成10年～平成11年検討結果の課題整理及び解決	・ 平成10年～平成11年検討結果の課題整理及び解決	・ 平成10年～平成11年検討結果の課題整理及び解決	・ 平成10年～平成11年検討結果の課題整理及び解決	・ 平成10年～平成11年検討結果の課題整理及び解決
平成14年					
平成15年					
平成16年					
平成17年					
平成18年					
平成19年					
平成20年					
平成21年					
平成22年	・ 開口部の深掘が顕著になり、既存施設に悪影響を及ぼす懸念	・ 開口部の深掘が顕著になり、既存施設に悪影響を及ぼす懸念	・ 開口部の深掘が顕著になり、既存施設に悪影響を及ぼす懸念	・ 開口部の深掘が顕著になり、既存施設に悪影響を及ぼす懸念	・ 開口部の深掘が顕著になり、既存施設に悪影響を及ぼす懸念
平成23年					
平成24年					
平成25年					
平成26年					
平成27年					
平成28年					
平成29年					
平成30年					
平成31年					
平成32年					
平成33年					
平成34年					
平成35年					
平成36年					
平成37年					
平成38年					
平成39年					
平成40年					
平成41年					
平成42年					
平成43年					
平成44年					
平成45年					
平成46年					
平成47年					
平成48年					
平成49年					
平成50年					
平成51年					
平成52年					
平成53年					
平成54年					
平成55年					
平成56年					
平成57年					
平成58年					
平成59年					
平成60年					
平成61年					
平成62年					
平成63年					
平成64年					
平成65年					
平成66年					
平成67年					
平成68年					
平成69年					
平成70年					
平成71年					
平成72年					
平成73年					
平成74年					
平成75年					
平成76年					
平成77年					
平成78年					
平成79年					
平成80年					
平成81年					
平成82年					
平成83年					
平成84年					
平成85年					
平成86年					
平成87年					
平成88年					
平成89年					
平成90年					
平成91年					
平成92年					
平成93年					
平成94年					
平成95年					
平成96年					
平成97年					
平成98年					
平成99年					
平成100年					
平成101年					
平成102年					
平成103年					
平成104年					
平成105年					
平成106年					
平成107年					
平成108年					
平成109年					
平成110年					
平成111年					
平成112年					
平成113年					
平成114年					
平成115年					
平成116年					
平成117年					
平成118年					
平成119年					
平成120年					
平成121年					
平成122年					
平成123年					
平成124年					
平成125年					
平成126年					
平成127年					
平成128年					
平成129年					
平成130年					
平成131年					
平成132年					
平成133年					
平成134年					
平成135年					
平成136年					
平成137年					
平成138年					
平成139年					
平成140年					
平成141年					
平成142年					
平成143年					
平成144年					
平成145年					
平成146年					
平成147年					
平成148年					
平成149年					
平成150年					
平成151年					
平成152年					
平成153年					
平成154年					
平成155年					
平成156年					
平成157年					
平成158年					
平成159年					
平成160年					
平成161年					
平成162年					
平成163年					
平成164年					
平成165年					
平成166年					
平成167年					
平成168年					
平成169年					
平成170年					
平成171年					
平成172年					
平成173年					
平成174年					
平成175年					
平成176年					
平成177年					
平成178年					
平成179年					
平成180年					
平成181年					
平成182年					
平成183年					
平成184年					
平成185年					
平成186年					
平成187年					
平成188年					
平成189年					
平成190年					
平成191年					
平成192年					
平成193年					
平成194年					
平成195年					
平成196年					
平成197年					
平成198年					
平成199年					
平成200年					
平成201年					
平成202年					
平成203年					
平成204年					
平成205年					
平成206年					
平成207年					
平成208年					
平成209年					
平成210年					
平成211年					
平成212年					
平成213年					
平成214年					
平成215年					
平成216年					
平成217年					
平成218年					
平成219年					
平成220年					
平成221年					
平成222年					
平成223年					
平成224年					
平成225年					
平成226年					
平成227年					
平成228年					
平成229年					
平成230年					
平成231年					
平成232年					
平成233年					
平成234年					
平成235年					
平成236年					
平成237年					
平成238年					
平成239年					
平成240年					
平成241年					
平成242年					
平成243年					
平成244年					
平成245年					
平成246年					
平成247年					
平成248年					
平成249年					
平成250年					
平成251年					
平成252年					
平成253年					
平成254年					
平成255年					
平成256年					
平成257年					
平成258年					
平成259年					
平成260年					
平成261年					
平成262年					
平成263年					
平成264年					
平成265年					
平成266年					
平成267年					
平成268年					
平成269年					
平成270年					
平成271年					
平成272年					
平成273年					
平成274年					
平成275年					
平成276年					
平成277年					
平成278年					
平成279年					
平成280年					
平成281年					
平成282年					
平成283年					
平成284年					
平成285年					
平成286年					
平成287年					
平成288年					
平成289年					
平成290年					

1. 事業を必要とする理由

鳥取沿岸岩美海岸及び田後港海岸は、鳥取県岩美郡岩美町に位置し、当海岸は山陰海岸国立公園に指定されており、かつ西側約2 km 付近は、国定海中公園に指定されている。当地区は、自然環境に恵まれた観光地で夏には海水浴場として県内はもとより京阪神方面からの利用客が多いが、長年の侵食により汀線の後退が著しく、平成元年度には波浪災害も発生している。背後には国道が近接しており、民家、キャンプ場、駐車場等も密着しているため、早急に対策を講じることが必要となり、平成2～8年度にかけて人工リーフによる対策工が段階的に施工されてきた。しかし、漂砂現象により隣接する田後港の航路埋没、浦富海岸の侵食や堆積などの問題は依然として解消されておらず、風光明媚な海岸地域に多くの問題が出て来ている。この問題を解決するため、抜本的な対策を実施する必要がある。





全体計画平面図S=1:5000